

アセット・インベスターズ株式会社

09年3月期決算説明資料

当社は本年7月より、商号をマーチャント・バンカーズ株式会社として新たにスタートをいたします。



2009年5月26日

アセット・インベスターズ株式会社

目次

- 09年3月期 決算説明資料
 - 09年3月期 決算の概況
 - 連結損益計算書の概況
 - 連結貸借対照表の概況
 - 営業投資資産の資産圧縮内訳
 - 10年3月期 連結業績予想

- 新中期経営計画“*Next Horizon 2009-2011*”
 - 基本方針
 - 事業戦略
 - 中期収益計画

- 会社概要
 - 会社概要
 - 商号の変更
 - 新経営理念

09年3月期 決算説明資料

- 09年3月期 決算の概況
- 連結損益計算書の概況
- 連結貸借対照表の概況
- 営業投資資産の資産圧縮内訳
- 10年3月期 連結業績予想

補足資料

- ① MB事業(投資残高の推移)
- ② H&W事業の概況

1. 09年3月期 決算の概況

- 財務リストラクチャリング
 - 積極的な資産売却による有利子負債の大幅削減
 - 転換社債型新株予約権付社債の早期償還の完了
 - 第三者割当増資による自己資本の充実

- 事業リストラクチャリング
 - 日中企業の中のM&A業務などに経営資源を集中
 - マーチャント・バンキング事業における積極的な投資回収と営業投資資産の評価損の計上
 - ホスピタリティ&ウェルネス事業における不採算事業からの撤退
 - 全社的なコスト削減の徹底による基礎的な資金収支の改善

- 資本政策
 - 09年2月末でアセット・マネジャーズ・ホールディングス株式会社(大証ヘラクレス上場)の株式保有比率が15%未満となり、親子上場を解消

- 「継続企業の前提に関する注記」の解除
 - 上記の財務及び事業のリストラクチャリングの進捗により、大幅に財務及び収益体質が改善し、09年3月期第2四半期より付されていた注記は解消

- 新中期経営計画 “Next Horizon 2009-2011”を発表
 - 新しい商号並びに経営理念を発表
 - 新体制の下で日中間のビジネス展開に経営資源を集中した新しい事業方針及び収益目標を策定

2. 連結損益計算書の概況 ～売却損並びに評価損により大幅な赤字計上

(単位:百万円)	08/3期 実績	09/3期 実績	前年同期比 増減	10/3期 業績見込
売上高	5,054	7,771	2,717	5,000
MB事業	2,199	4,171	1,972	1,500
H&W事業	3,083	3,876	793	3,500
売上総利益	2,004	△8,424	△10,428	2,900
営業利益	△1,128	△11,628	△10,500	600
MB事業	△528	△11,627	△11,099	500
H&W事業	△83	△1	82	100
経常利益	△1,515	△11,935	△10,420	500
四半期(当期)純利益	44	△10,007	△10,051	500
EPS(円)	0.55	△89.44	△89.99	2.22

(注)・MB事業はマーチャント・バンキング事業の、H&W事業はホスピタリティ&ウェルネス事業の略称です。
・事業セグメントごとの売上高は、内部消去前の数値を記載しております。

- 期首からの積極的なEXIT活動やアセット・マネジャーズ株式会社への営業投資資産の一括売却などにより国内・海外企業及び不動産の投資回収が進捗、売上高7,771百万円と前年同期比2,717百万円の増収
- 一方、積極的な投資回収により売却損が膨らんだ他、市況悪化に伴う営業投資有価証券の評価損を追加で計上したことにより、営業損失11,628百万円、経常損失11,935百万円と大幅な赤字を計上
- 固定資産の売却損及び減損損失などによる特別損失1,935百万円と法人税等調整額1,346百万円に対し、少数株主損失の戻し3,150百万円があり、当期純損失は10,007百万円となる

3. 連結貸借対照表の概況 ～投資回収や資産評価減により総資産が大幅に減少

(単位:百万円)	08/3 期末	09/3 期末	構成比	前期末 比増減
流動資産	24,399	4,559	50.5%	△19,840
現預金	1,758	601	—	△1,157
受取手形及び売掛 金	160	137	—	△23
① 企業投資	12,631	3,112	—	△9,519
① 不動産投資	2,935	443	—	△2,492
② 営業貸付金	3,506	—	—	△3,506
② 繰延税金資産	2,160	—	—	△2,160
② その他流動資産	1,247	264	—	△983
固定資産	4,676	4,460	49.5%	△216
③ 有形固定資産	3,574	4,048	—	474
③ 無形固定資産	11	8	—	△3
③ 投資その他資産	1,089	403	—	△686
資産合計	29,075	9,020	100.0%	△20,055

	08/3 期末	09/3 期末	構成比	前期末 比増減
流動負債	7,341	2,709	30%	△4,632
④ 短期借入金	5,906	850	—	△5,056
④ 1年内返済長期借入金	668	976	—	308
④ その他流動負債	766	880	—	114
固定負債	7,024	3,941	43.7%	△3,110
④ 長期借入金	1,766	2,892	—	1,126
④ 社債	600	600	—	0
④ 新株予約権付社債	4,025	—	—	△4,025
④ その他固定負債	633	448	—	△185
純資産	14,709	2,369	26.3%	△12,340
⑤ 株主資本	11,562	2,409	26.7%	△9,153
⑤ 評価・換算差額等	△693	△272	-3%	421
⑤ 新株予約権	89	49	0.5%	△40
⑤ 少数株主持分	3,751	181	2%	△3,570
負債・純資産合計	29,075	9,020	100.0%	△20,055

増減の主な要因

- ① 営業投資資産が、投資回収、評価損、ファンド子会社解散等により前期末比15,517百万円減少
- ② 繰延税金資産の前期末残高2,160百万円を当期に全額取崩し
- ③ 有形固定資産は、子会社の不動産取得2,600百万円の一方、資産売却及び減損損失があり、前期比474百万円の増加
- ④ 新規設備資金として長期借入金2,700百万円があった一方で、転換社債の償還を含め有利子負債は大幅に圧縮
- ⑤ 当期純損失10,007百万円により株主資本が減少したものの、増資等により当期末の連結純資産は2,369百万円(自己資本比率は23.7%)となり、09年3月期第3四半期より改善

4. 営業投資資産の資産圧縮内訳

(単位:百万円)	08/3期①	09/3期②	②-①	売上総利益合計			キャッシュフロー
				回収損益	評価損益		
営業投資有価証券 (1)	15,566	3,555	△12,011	△1,642	△4,625	△6,267	5,744
企業投資	12,631	3,112	△9,519	△1,601	△3,094	△4,695	
不動産投資	2,935	443	△2,492	△41	△1,531	△1,572	
営業貸付金 (2)	3,506	0	△3,506	△1,359	△237	△1,596	1,910
企業投資	1,015	0	△1,015	12	0	12	
不動産投資	2,491	0	△2,491	△1,371	△237	△1,608	
流動資産ベース (1)+(2)=(3)	19,072	3,555	△15,517	△3,001	△4,862	△7,863	7,654
有形固定資産 (4)	3,574	4,048	474	△1,404	△99	△1,503	△1,977
総資産ベース (3)+(4)	22,646	7,603	△15,043	△4,405	△4,961	△9,366	5,677



財務キャッシュフロー
△4,757

内訳の概要

- ① 営業投資有価証券は12,011百万円の資産圧縮。内訳は資金回収5,744百万円、回収・評価損で△6,267百万円
- ② 営業貸付金は3,506百万円の資産圧縮。内訳は資金回収1,910百万円、回収・評価損で△1,596百万円
- ③ 有形固定資産は474百万円の資産純増。内訳は、新規投資2,600百万円、回収・評価損で△1,503百万円
- ④ 上記の資産圧縮による資金回収5,677百万円で財務活動によるキャッシュフロー△4,757百万円を賄う

5. 10年3月期 連結業績予想 ～不採算事業からの撤退及びコスト削減により黒字体質へ転換

(単位:百万円)	07/3期実績	08/3期実績	09/3期実績	10/3期見込
売上高	10,522	5,054	7,771	5,000
MB事業	6,712	1,897	3,895	1,500
H&W事業	3,727	3,083	3,876	3,500
売上総利益	5,295	2,004	△8,424	3,400
MB事業	2,769	△44	△10,905	800
H&W事業	2,519	2,034	2,481	2,600
販管費	△3,174	△3,132	△3,204	△2,800
営業利益	2,121	△1,128	11,628	600
MB事業	2,060	△1,036	△11,627	500
H&W事業	63	△83	△1	100
経常利益	2,048	△1,515	△11,935	500
当期純利益	1,787	44	△10,007	500

増減の主な要因

- ① MB事業は既存ポートフォリオからのEXITにより収益確保
- ② H&W事業は不採算事業からの撤退及びコスト削減努力により黒字体質へ転換
- ③ グループ全体での人件費を中心とする徹底的なリストラクチャリングによる販管費の削減
- ④ 有利子負債の削減により金利費用の大幅改善

補足資料①：MB事業 投資残高の推移

【企業投資部門の投資残高】

(単位:百万円)	08/3期			投資社数増減		09/3期			
	投資社数	投資残高	構成比	増加	減少	投資社数	投資残高	構成比	前期末比 投資額増減
国内企業	23	8,176	65%	0	10	13	807	26%	△7,369
上場企業	8	3,040	24%	0	5	3	771	25%	△2,269
未上場企業	15	5,136	41%	0	5	10	35	1%	△5,101
海外企業	24	4,455	35%	0	6	18	2,306	74%	△2,149
上場企業	5	1,013	8%	0	4	1	369	12%	△644
未上場企業	19	3,442	27%	0	2	17	1,936	62%	△1,506
合計	47	12,631	100%	0	13	31	3,112	100%	△9,519

- 投資回収と評価損の計上により国内企業投資で△7,369百万円の減少、海外企業投資残高で△2,149百万円の減少

【不動産投資部門の投資残高】

(単位:百万円)	08/3期			投資案件増減		09/3期			
	投資物件	投資残高	構成比	増加	減少	投資物件	投資残高	構成比	投資額 前期比増減
営業投資有価証券	9	1,012	34%	0	3	6	0	0%	△1,012
棚卸資産	6	1,923	66%	0	2	3	443	100%	△1,480
合計	15	2,935	100%	0	5	9	443	100%	△2,492

- 棚卸資産の投資回収があった他、営業投資有価証券の評価損の計上があり投資残高が△2,492百万円の減少

補足資料② : H&W事業の概況

【H&W事業の売上高・売上総利益・営業利益】

(単位:百万円)	08/3期	09/3期	前年同期比 増減
売上高	3,083	3,876	793
ホテル事業 ホテル日航茨木大阪(大阪府茨木市) ホテルJALシティ松山(愛媛県松山市) 公営施設の指定管理6箇所(09/3期開始)	2,442	3,342	900
アミューズメント事業 ボウリング場(岐阜県土岐市・静岡県浜松市) 複合アミューズメント施設(茨城県坂東市) バッティングセンター(門真等)	611	505	△107
その他	29	29	0
営業利益	△83	△1	82

- 売上高は前年同期比793百万円増の3,876百万円
 - ホテル事業は、指定管理事業の開始に伴い、前年同期比900百万円の大幅増収
 - アミューズメント事業は、ボウリング場市況の低迷や競合店の出店等により前年同期比107百万円の減収。
- 営業損益は△1百万円となり、前年同期比で82百万円損失幅が縮小
 - ホテル部門が堅調に推移した他、アミューズメント部門で2施設撤退により損失幅が縮小

新中期経営計画 “Next Horizon 2009-2011”

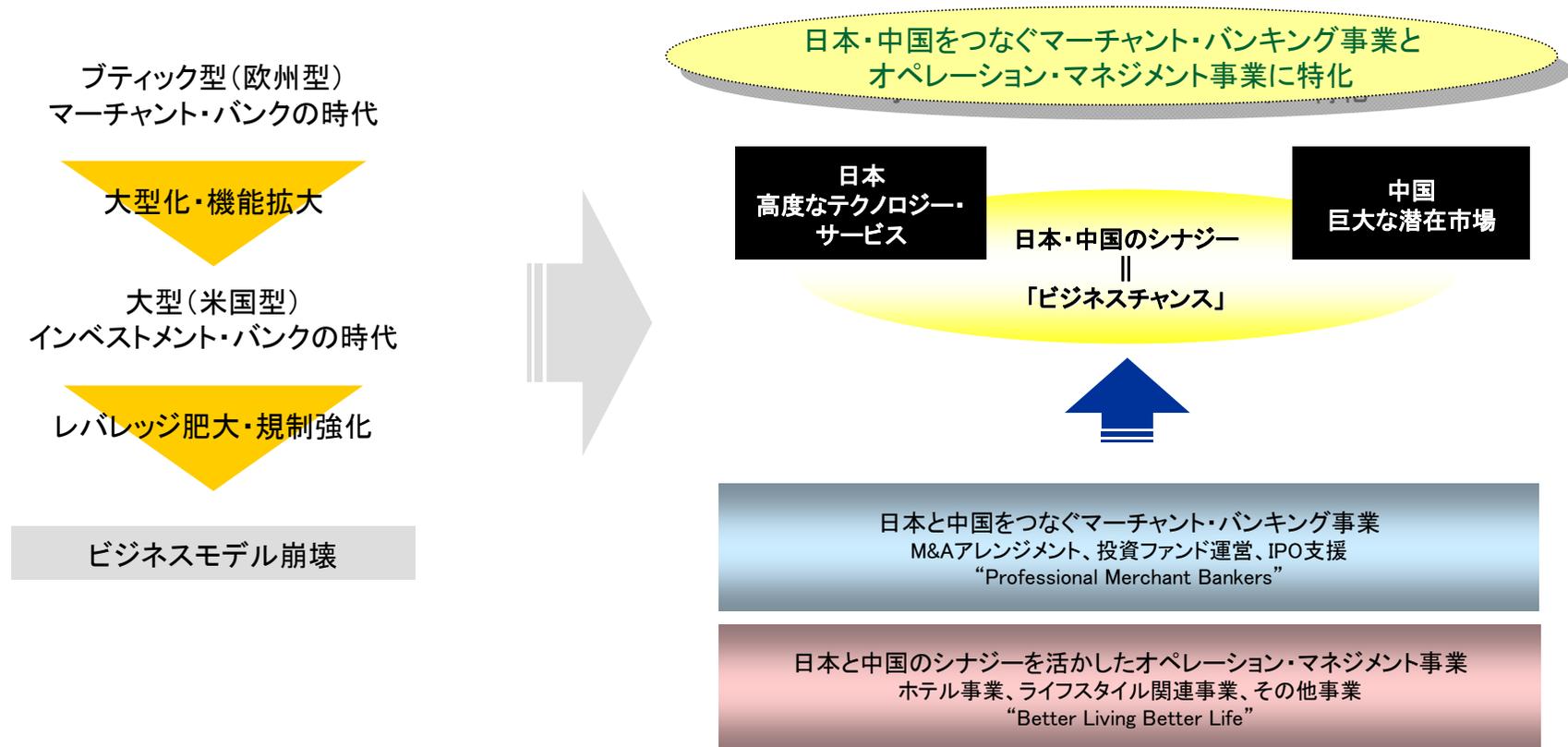
- 基本方針
- 事業戦略
- 中期収益計画(2009-2011)

1. 基本方針 ～ 投融資事業からグローバル総合事業会社へ

- これまでのアセット・マネジャーズ・ホールディングス・グループ内の投融資会社から、アジア経済圏を中心とするグローバルな総合事業会社としての展開を目指します。
- 従来の投融資事業・ファンド事業・アドバイザリー事業等の投資銀行業務に加えて、日中の有力な事業会社等との業務提携による機能を活かしつつ、日中の事業会社の成長戦略をサポートし企業価値向上と持続的成長に貢献します。
- 日中の優良・成長企業に対する投融資やファンド・アレンジメント事業等中心とする投資銀行モデル型の収益構造を転換し、今後、成長が見込まれる日中の各事業会社との合併事業などを通じた新たな収益基盤の拡充を早期に実現します。
- 中国を中心とするアジア経済圏で今後の成長が見込まれる食品、水産漁業、環境、薬品、ホテル等のサービス業などの分野を最重要セクターと位置づけております。
- 健全性を重視した財務戦略として、流動比率200%超、自己資本比率30%超を経営の重要な目標といたします。
- 株主還元の施策としましては配当政策を重視します。具体的には配当性向20%を経営の重要な目標とし、早期の復配を目指します。

2. 事業戦略 ～ ブティック型マーチャント・バンクの時代

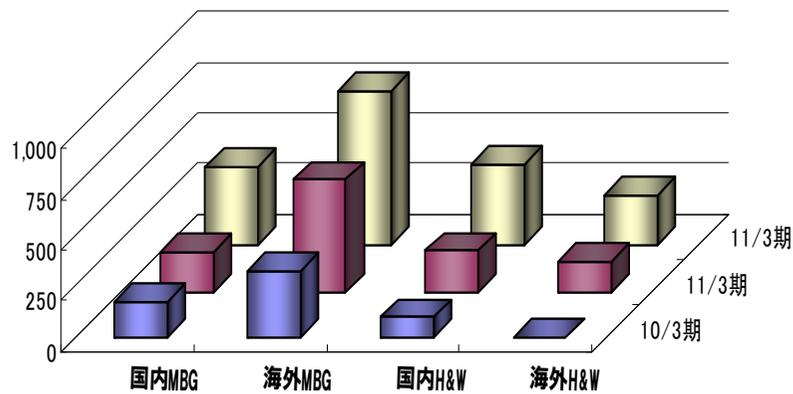
米国発の金融危機により大型インベストメント・バンクのビジネスモデルが崩壊したなかで、中に特化した金融市場のニーズを満たす「ブティック型マーチャントバンク」事業をコア事業として成長戦略を推進いたします。



3. 中期収益計画 ～ 国内外部門でのバランスのとれた収益構造を目指す

(単位:百万円)	2010/3期	2011/3期	2012/3期
売上高	5,000	5,500	6,500
営業利益	600	1,100	1,800
MBG部門	500	750	1,150
H&W部門	100	350	650
経常利益	500	1,000	1,700
当期純利益	500	1,000	1,700

部門別営業利益



収益内訳の概要

<u>12/3期</u>	
MBG	2社(海外)上場
H&W	海外ホテル事業始動
<u>11/3期</u>	
MBG	2社(海外)上場
H&W	海外合併事業始動 国内受託増加 海外受託開始
<u>10/3期</u>	
アレンジメント	日中案件始動
MBG	1社(海外)上場

4. 中期収益計画 ～ 海外MBG部門の主要銘柄

会商号 本社所在地	業種	直近決算(2008年12月末)			当社保有 株式数	シェア (%)	IPOスケジュール
		売上高 (単位:千)	営業利益 (単位:千)	純利益 (単位:千)			
A社(未上場) 中国・北京	臍帯血バンク事業	HKD 156,643	HKD 75,997	HKD 61,896	50,000	3.44%	今年度上期に上場予定
B社(未上場) 中国・香港		金属加工業	HKD 1,860,780	HKD 563,400			
C社(未上場) 中国・北京	携帯電話用アプリケーション開発・サービス事業		CNY 41,500	CNY 13,000	CNY 11,000	2,105,264	1.53%
D社(未上場) 中国・上海		レストラン・外食産業のインターネット情報事業	CNY 30,441	CNY -13,402	CNY -14,458		
E社(未上場) 韓国・ソウル	消費者金融業(個人向け信用貸付)		KRW 58,217,598.19	KRW 17,251,191	KRW 12,367,418	2,500	—
F社(上場) 台湾・台北		電子機器製造業	NTD 10,287,340	NTD -340,440	NTD -282,760		
G社(未上場) 中国・上海	タクシー内広告事業		US\$ 11,803	-US\$ 6,154	-US\$ 6,186	2,796,430	6.36%

※なお、C社は2009年2月末の累積業績、F社は2008年9月末の累積業績、E社は2008年11月末累積業績になります。

会社概要

- 会社概要
- 商号の変更
- 新経営理念

1. 会社概要

会社概要

商号	アセット・インベスターズ株式会社
本社	東京都千代田区内幸町一丁目1番1号 帝国ホテルタワー
資本金	4,290百万円(2009年3月31日現在)
設立	1947年3月17日
代表者	代表取締役社長兼CEO 森下 将典
大株主	TOTAL NETWORK HOLDINGS LIMITED 古川 令治 株式会社エフ・アール・ホールディング ※アセット・マネジャーズ グループ100%出資子会社
業務内容	1. 国内外の企業・不動産への投融資 2. 国内外の企業・不動産に関する財務アドバイ バイス 3. 国内外の企業・不動産を対象とした投資 ファンドの運用 4. 不動産の売買、仲介、賃貸及び管理業務等 5. ホテル業等オペレーション施設の運営及び 管理

沿革

1947/3	西日本紡織株式会社(本社福岡県福岡市)設立 繊維事業を開始
1949/6	福岡証券取引所に株式上場
1961/9	大阪証券取引所第二部に株式上場
1967/7	都築紡績株式会社が西日本紡織株式会社の経営継承
1979/4	都築紡績株式会社が津島毛糸紡績株式会社と合併 新日本紡績株式会社に商号変更
1994/10	熊本県菊池郡泗水町(現菊池市泗水町)に本社移転
1996/6	愛知県名古屋市においてオフィスビルの賃貸業を開始
1996/9	静岡県浜松市、岐阜県土岐市においてボウリング事業を開始
2002/5	国内繊維事業から撤退
2003/1	アセット・マネジャーズ株式会社(現アセット・マネジャーズ・ホー ルディングス株式会社)が親会社となる
2003/6	愛知県名古屋市に本社移転
2003/7	アセット・インベスターズ株式会社に商号変更 マーチャント・バンキング事業を本格的に開始
2004/7	株式会社アセット・オペレーターズを子会社とする ホスピタリティ&ウェルネス事業を開始
2006/6	東京都千代田区に本社移転
2009/1	第三者割当増資を実施 経営体制を刷新、「新経営戦略」を策定

2. 商号の変更 ～ 新商号の下で新たな事業展開を目指す

- 当社は、新たな主要株主の下で事業の再構築に取り組むにあたり、平成21年7月1日付けで商号をマーチャント・バンカーズ株式会社(英文名 MBK Co., Ltd.)に変更いたします(平成21年6月24日開催予定の定時株主総会において承認されることを前提としております)。

マーチャント・バンカーズ株式会社
(英文名 MBK Co.,Ltd.)



- 当社は、経営体制等を一新するとともに、当社の商号を日本と中国とを結ぶマーチャント・バンキング事業並びに両国のシナジーを活かしたオペレーション・マネージメント事業を中核とする新たな経営戦略、経営理念に相応しい商号に変更いたします。

3. 新経営理念 ～ 今年度の経営方針と新経営理念

Vision（当社の経営方針）

- ✓ 日本及び中国の双方をつなぐグローバル・マーチャント・バンクとして、信頼とビジネスネットワークを築くことを目指してまいります。

Mission（当社の経営使命）

- ✓ クライアント企業の皆様に、事業戦略立案、ファイナンス及びM&Aなどに関する高度且つ顧客志向のソリューションを提供し、企業価値の向上に貢献いたします。
- ✓ ”Better Living Better Life”に資する日本及び中国のノウハウを結集し、双方の事業家がWin-Winを実現できる事業展開をサポートします。

Strength（当社の強み）

- ✓ 当社の「プロフェッショナル・マーチャント・バンカー」としてのノウハウと、日本及び中国におけるビジネスネットワークを活かした、他に比類ないグローバル・サービスを提供することを当社の強みとしてまいります。



【お問い合わせ先】

アセット・インベスターズ株式会社 社長室

TEL:03-3502-4910 FAX:03-3502-4915

E-mail: info@assetinvestors.co.jp U R L : <http://www.assetinvestors.co.jp/>

本資料に記載されている計画・戦略・見通し及びその他の歴史的事実でないものは、将来に関する見通しであり、これらは現在入手可能な期待・見積もり・予想に基づいています。これらの期待・見積もり・予想は、経済情勢や競争環境の変化等の潜在的リスク・不確実な要素、仮定の影響を受けますので、実際の実績は見通しから大きく異なる可能性があります。従ってこれらの将来予想に関する記述に全面的に依拠することは差し控えるようお願いいたします。また、当社は新しい情報・将来の出来事などに基づきこれらの将来予測を更新する責務を負うものではありません。

